

装圖

事							本
思	打	見	得	寢	為	来	居
登	う	み	う	ぬ	と	く	う
ふ	つ						
		ル	ル	ル	ル	ル	靡引
ひ	ち	み	え	ぬ	し	き	か
へ	て	み	え	ぬ	せ	こ	か
や	た	み	え	ぬ	せ	こ	か
		レ	レ	レ	レ	レ	
							目
							来
							靡
							伏
							皆
							奉

無末無靡

無末有靡

有末無靡

装

事							本
捨	落	恨	越	孔	在	芝	鋪
と	お	う	こ	あ	遥	早	戀
つ	つ	む	ゆ	あ	あ	あ	云
ル	ル	ル	ル	る	る	る	キ
て	ち	み	え	あ	あ	く	ク
て	ち	み	え	れ	れ		
て	ち	み	え	ら	ら		
レ	レ	レ	レ				
						け	ケ
						か	カ

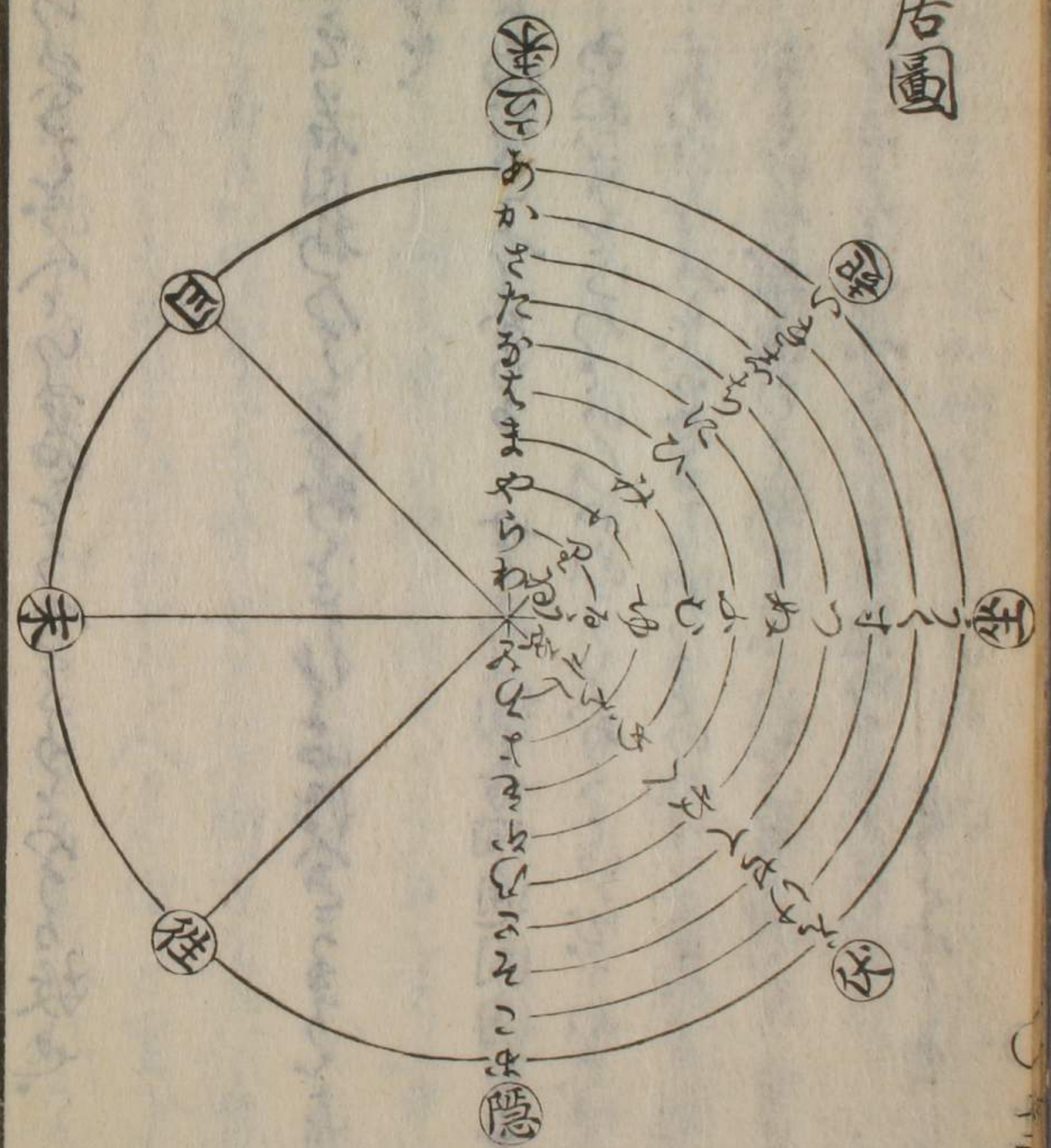
有末有靡

有末有引

有末有靡

私云事鋪のハ靡といひ孔在芝のハ引といふ。
又云引靡なるハ事の末をわらふといふ。

五居圖



一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

経緯圖

わ	ら	や	ま	ま	た	か	あ
お	を	い	ひ	ふ	し	ち	い
う	む	ゆ	む	ゆ	つ	て	う
を	れ	え	め	へ	て	せ	え
を	り	よ	よ	り	と	そ	に

あまのこ
あまのこ
あまのこ
あまのこ
あまのこ
あまのこ
あまのこ
あまのこ

一六運 國禪より先仁天皇の御世に於て行なはるる
 上はより其後より龍山院御世より二百年
 中じりしは後白河院御世より百廿二年
 中より正徳院御世より二百廿二年
 後花園院御世より二百廿二年の御世に於て
 のち至今迄也。

一七運 其より上句下句の
 一八運 其より中句の
 一九運 其より下句の
 二〇運 其より上句の
 二一運 其より中句の
 二二運 其より下句の

一三運 其より上句の
 一四運 其より中句の
 一五運 其より下句の
 一六運 其より上句の
 一七運 其より中句の
 一八運 其より下句の
 一九運 其より上句の
 二〇運 其より中句の
 二一運 其より下句の
 二二運 其より上句の
 二三運 其より中句の
 二四運 其より下句の
 二五運 其より上句の
 二六運 其より中句の
 二七運 其より下句の
 二八運 其より上句の
 二九運 其より中句の
 三〇運 其より下句の

こゝろ平なり野ありてはたしむるは
わろし一箇の去あり日花をよむ
とらよ上なり

一 かくれいこし
おかしこいんはかたあやの重若とこいふ浦
おかしこいんはかたあやの重若とこいふ浦
うしろのあやをいひしよ

一 火水乃詞 せよしよあやのいひしよ
うしろのあやをいひしよ

一 内外の詞 世よしよ有情非情あり内とそ有情とそ外
とそ非情とそ又非情ありとそ有情とそ外
は只内かり師院漢をいひしよ

一 裏表乃詞 裏とそいひしよ上あり表とそ人物事
たう魚あり但人物事たうありとそいひしよ
ありていひしよ只表あり師院漢ありしよ
一 圓をいひしよ



條あり
屬あり倫あり隊あり名あり
かきいあり也
里言なり

一 古のありしよ又まはし文あり

● めろしよいひしよありしよ

○ めろしよいひしよありしよ

物あり

毛天
加天良

六倫

有可

十二身

氏
邨利
也留
令

八隊

加保

去不

之
由久
加奴
為

邨加良

來將

咩利
阿不
被如

義
加之
八多

久

奈倍
加天

介

母乃

